

8・15 昼休み 県民集会から

別役 美佐

丸ノ内緑地に「アベ政治を許さない。いのちと暮らしを守れ」の表示が掲げられました。今年から、8・15の集会と年に一度の学習会を目標にして取り組んでいる「憲法25条の会」の主催です。今年も、高退協が事務局を担当しています。「いのちを支える政治」を願うテーマのもとで、「医療生協の宮本研一さんは、『今のつづられた貧困や格差社会の中で、医療機関への受診が遅れ、我慢をせざるを得ない状況が生まれてきている。『助けて』と手を上げてほしい』と声を上げ、助けられるには、土台となる公助が必要である。土台があって自助や共助が成り立つ。憲法25条（生存権）、憲法9条（平和主義）、憲法13条（幸福追求権）の理念で地域に協同の『わ』を拡げたい」と訴えました。



昼休み県民集会から

「助けて」と手を上げてほしい。『助けて』と声を上げ、助けられるには、土台となる公助が必要である。土台があって自助や共助が成り立つ。憲法25条（生存権）、憲法9条（平和主義）、憲法13条（幸福追求権）の理念で地域に協同の『わ』を拡げたい」と訴えました。

の対象からはずし市町村事業に移管し、介護サービスの自己負担を現行の1割から段階的に2割に引き上げようとしている。年金の受給は、自己申告しなくてははいけな。手続きがわからなければ相談してほしい。また、今年の8月から年金の受給資格が25年から10年の方々が年金受給資格をもつようになった。年金組合や事務所に問い合わせをしてほしい。国の責任で、若者も高齢者も安心できる年金を」と訴えました。現場報告のあとには、「いのちが平等」という考えのもとに「憲法9条と25条を守る」たたかいは「平和と社会保障を守る運動」として展開しながら、市民の共同をさらにすすめていくことを確認し合いました。集会には、80名ほど集まりました。

「8・15 戦争を語りつぐつどい」150名参加

冒頭の退婦歌う会の「さとうきび畑・よりそでの少女・ねがい」の歌声には力強く、切実な思いを感じ、続く朗読梨の会「一雪崩のとき・夕日のなかで・きょうだいを殺しに」には悲しみとともに前へ進めと背中を押されたことでした。

今年も8月十五日、「戦後七十二の思ひ、8・15戦争を語りつぐつどい」が、先実の記憶や記録を風化させまいと、またきなき臭い風を吹き飛ばそうと150人余りの県民が集い、盛大に開催されました。（高退協から18名の参加）



何を継承するのか「と題して熱弁を振るわれました。（要旨は以下の通り）」

●戦争遺跡は、加害・被害の実態をアジア各地の人々と日本人との歴史認識の大きな差を縮める有効な手段の一つだ。●戦争の実態や研究に戦争遺跡や遺物が補うものが多い。●97年に「（高知海軍航空隊・基地跡）掩体壕を文化財に推進する会」が結成され、南国市により掩体壕7基全てが史跡に指定されたが、「指定はゴールでなくスタート、平和教育に生かす後世に伝えていく」（南国市教育長）、「基地建設のため多くの土地が接収され一つの村が消滅した。戦争の犠牲になった郷土の歴史を伝えなければならぬ。我々の世代がなくなれば掩体に語ってもらえない」（中村雄輔氏）、などの意義にある声の反面、各地での保存運動の中にある富国強兵の近代化路線を肯定的に捉えたり、侵略戦争の加害の側面を隠べし戦争賛美の危険な動きもある。●旧陸軍44連隊関連遺跡として弾薬庫や講堂などや、軍隊の階級制を伝える陸軍墓地跡も朝倉周辺に残っている。●戦争遺跡は、私たちの最も身近に存在する遺跡であり、そこに触れ、立つことで歴史と空間を共有し追体験できる。最後に県教組青年部の組合員が、沖縄ツアーで「基地反対座り込み」行動の人たちとの交流の中で平和的な反対運動にふれた感動を発言し、ペダルの一員の青年が、共謀罪反対などなどの平和のための活動を続けてきたことや今の貧困と格差の問題も平和そのものと密接につながっていること訴え、終戦当時小島退婦教会員が、戦争中の教育の実態と教員として「教え子を再び戦争に送ら

温泉昼寝会のお誘い

日時 11月14日（火）11時～3時
場所 三翠園
費用 3500円

天然風呂に入って疲れを癒し、食べて飲んで語りましょう。

（2面母親大会の続き）

また、今回の大会では6年前の東北大震災の被災地訪問の見学分科会が岩手、宮城、福島で取り組まれました。私は福島の第一原発の近隣の町を見学（500人の参加申し込みがありました）、抽選で100人参加）しました。自分自身の生きている期間に起こったこの大震災の現実を、自分自身を目で確認しておきたいと思う思いでした。お母さんもなくなった原つばや水田はセイタカアワダチソウが生え茂り、原発の影響で作付けができな田畑には廃棄物の山と、メガソーラーが大規模に設置されていきました。始めから原発でなく、自然エネルギーだったらと思わざるを得ません。大きな町がゴーストタウン化し、自分の家にもバリエーションが貼られて入ることさえできない。規制が解除された町には役場の職員だけが帰省し、復興の証のコンビニ閉店では市外から若者が通ってきて、手には無数のイノシシの足跡、先の見通しのつかない中で、この事実を全国に発信しようと思ってきました。

「初歩きに行こう」

毎年恒例の初歩きが筆山、血ヶ峰、鷲尾山にて行われます。山登りの後は、三翠園にて入浴、交流会です。2018年1月9日（火）なので予定に入れておいて下さい。

来年は高知開催。ぜひ多くの皆さんに日本母親大会の素晴らしさを味わってほしいと思います。ご協力よろしくお願ひします。

「動してきたことを発表されました。昨年120名、今年150名と年々少くも参加の輪が広がってきただことは、『戦争をすることへの危機感もあると思う中、高齢化の進む中、今こそみんなに、若い人たちに戦争のことを訴えたい、伝えたい』との思いも強まってきたのではと感じながら、戦争を知らずに、父母が復興をめざし忙しく働いていた頃に生まれた世代の私たちも、重くなりかけた腰を「ヨッコラショ」ともう一度もち上げて、前を向いて頑張ろうと思った「つどい」でした。